

平成 22 年 6 月 11 日

各 位

上場会社名 株式会社フルスピード
(コード番号：2159 東証マザーズ)
本社所在地 東京都渋谷区道玄坂一丁目 12 番 1 号
代 表 者 代表取締役社長 芳賀麻奈穂
問 合 せ 先 執行役員 管理本部長 田中勝真
電 話 番 号 03-5728-4460 (代表)
(URL <http://www.fullspeed.co.jp/>)

平成 22 年 7 月期通期業績予想の修正および
貸倒引当金繰入額・特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、平成22年 3 月12日に公表いたしました平成22年 7 月期通期業績予想の修正および貸倒引当金繰入額・特別損失の計上について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 22 年 7 月期通期業績予想の修正

(1) 平成 22 年 7 月期通期 (平成 21 年 8 月 1 日～平成 22 年 7 月 31 日) 業績予想数値の修正

【連結】

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	15,219	1,003	976	90	636 円 71 銭
今回修正予想 (B)	14,383	△6	△165	△1,215	△8,468 円 79 銭
増減額 (B - A)	△836	△1,009	△1,141	△1,305	—
増減率 (%)	△5.5	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 7 月期通期)	13,249	642	613	105	743 円 20 銭

【個別】

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	11,904	841	796	93	657 円 94 銭
今回修正予想 (B)	9,252	△153	△283	△1,134	△7,900 円 63 銭
増減額 (B - A)	△2,652	△994	△1,079	△1,227	—
増減率 (%)	△22.3	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 7 月期通期)	10,971	773	752	185	1,308 円 86 銭

(2) 平成 22 年 7 月期通期業績予想の修正理由

当社は、平成 22 年 1 月より事業を開始した有料会員制サービス「フルスピードクラブ」の会員獲得に全社をあげて取り組んでまいりました。しかしながら、「フルスピードクラブ」の営業に専念したため各種商材ごとの売上高が減少しているほか、会員数の増加が当初の計画どおりに進んでいないことなどから、個別売上高は前回発表の業績予想値を 22.3% 下回る見込みとなりました。また、連結売上高においては一部の子会社の広告代理事業やアパレル事業などの業績が好調に推移しているものの、前回発表の

業績予想値を5.5%下回る見込みとなりました。

利益につきましては、人材の新規採用を一時的に控えるなど、引き続きグループ全体で徹底したコスト削減に努めているものの、主に個別売上高の減少に伴い見込んでいた売上総利益額が確保できない見込みとなりました。また、当第3四半期連結会計期間（平成22年2月1日～平成22年4月30日）において、本開示資料2に記載のとおり、取引先の破産申立てにより売掛債権94百万円全額の貸倒引当を行うなど想定外の販売費および一般管理費を計上したことや、関連会社に対する貸付金などを貸倒引当金繰入額として営業外費用に計上したことが主な要因となり、個別・連結ともに営業損失および経常損失を計上する見込みとなりました。

加えて、本開示資料3に記載のとおり、当第3四半期連結会計期間において、EC事業の縮小に伴う全サイトの減損損失および投資有価証券評価損、本社オフィスの縮小に伴う移転費用引当金繰入額などを特別損失として計上したことなどにより、平成22年7月期通期業績は当期純損失に転じる見込みとなりました。

以上により、連結、個別ともに平成22年7月期通期の業績予想数値を修正いたします。

2. 貸倒引当金繰入額の計上

(1) 株式会社サザンウインド・インターナショナルに対する売掛債権の取扱い

当社は、平成22年5月7日付で「株式会社サザンウインド・インターナショナルに対する債権の取立不能のおそれに関するお知らせ」を公表いたしました。同社に対する売掛債権の回収見込みが立たないことから、平成22年7月期第3四半期（平成22年2月1日～平成22年4月30日）において、94百万円全額（連結個別ともに同額）を貸倒引当金繰入額として販売費および一般管理費に計上することといたしました。

3. 特別損失の計上

(1) 特別損失の内容

当社は、平成22年7月期第3四半期（平成22年2月1日～平成22年4月30日）において、以下のとおり特別損失を計上いたします。

当社では現在、来期以降の収益力の回復・強化を図るため、経営体質の改善を目的とした大規模な経費削減施策を進めております。その取り組みの一環として、EC事業の現況や投資先の状況などを再精査した結果、主にはEC事業の縮小に伴いサイトの減損損失（連結：138百万円、個別：140百万円）および保有する投資有価証券の評価損（連結：34百万円、個別：84百万円）などの特別損失を計上することといたしました。また、地代家賃の削減を図るため、本社オフィスを縮小したことに伴う費用54百万円（連結個別ともに同額）につきましても移転費用引当金繰入額として特別損失に計上いたしました。

(2) 平成22年7月期第3四半期における投資有価証券評価損

	連結	単体
(A) 平成22年7月期第3四半期会計期間（平成22年2月1日から平成22年4月30日まで）の有価証券評価損の総額（＝イーロ）	34百万円	84百万円
(イ) 平成22年7月期第3四半期累計期間（平成21年8月1日から平成22年4月30日まで）の有価証券評価損の総額	616百万円	666百万円
(ロ) 直前四半期（平成22年7月期2四半期）累計期間（平成21年8月1日から平成22年1月31日まで）の有価証券評価損の総額	581百万円	581百万円

※ 四半期における有価証券の評価方法は、切放し方式を採用しております。

※ 当社の決算期末は、7月31日です。

○ 純資産・経常利益・当期純利益に対する割合

	連結	単体
(B) 平成21年7月期末の純資産	2,985百万円	2,947百万円
(A/B×100)	1.1%	2.9%
(C) 平成21年7月期の経常利益	613百万円	752百万円
(A/C×100)	5.5%	11.2%
(D) 平成21年7月期の当期純利益	105百万円	185百万円
(A/D×100)	32.4%	45.4%

以 上

(ご注意)

上記の業績予想につきましては、現時点で当社が入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によりこれら予想数値とは異なる場合があります。